

「Society5.0 for SDGs」実現に向けた次世代型観光映像の研究

研究の概要

国をあげた観光政策の推進を背景に、観光業界のみならず通信、広告、運輸など多くの業界においても、「観光」は最も重要なキーワードの一つとなっている。ただ、この観光の盛り上がりの背景を観光業の振興を企図したものとするのは間違いである。今後の日本社会のあり方を考えた時に、かつての過度な一極集中、人口減少時代に衰退し続ける地方における持続可能性の確保のために交流人口の確保が急務とされ、そのための観光という位置付けが重要である。この本筋を踏まえた上での観光業の振興が必要であり、これは世界がめざすSDGsの考え方と連動している。ところがこの観光振興のために強力なツールとして考えられる観光映像にはまだまだ問題が多い。SDGsの考え方は浸透せず、短期的な効果を求める、いわゆる“おもしろ観光映像”が生まれ続けている。木川はこの状況に危機感を持ち、UNWTO認定観光映像祭グループciffへの加入を目指す日本国際観光映像祭を立ち上げ、5G時代における、これからの観光映像のあり方を研究している。

研究の特徴

木川は、都市計画の研究者であり、多くのDMOを含めた自治体の観光戦略の委員をつとめ、短編映画が中心ではあるが受賞歴もある映画監督であり、映画祭、そして観光映像祭を主催している。

そのため、実際の自治体が描く観光戦略に基づいた観光映像の企画を研究者と実務家の二つの視点から立てることができる。特にこの中でも観光映像については、日本初の国際観光映像祭を立ち上げ、そのディレクターをつとめ、さらには提携する海外の国際観光映像祭でも審査員をつとめている。そのため、世界最高峰かつ最前線の観光映像に詳しい。そのため、現在のところ、ニッチな分野である観光映像では第一人者に近い状況である。この経験を用いて観光映像のあり方の研究を行っているところに特徴がある。



第一回日本国際観光映像祭

行政・経済界・地域と連携した取り組み例

日本国際観光映像祭を行うために、DMOを含めた観光団体、企業と勉強会を重ねてきた。また、映像祭では共催企業の協力を得て開催してきた。また、現在、一般企業と地方行政団体の観光映像を企画中である。

研究者からのメッセージ

観光映像を作ろうとする自治体や観光協会、映像制作者と、本当に地方のためとなる観光映像製作を一緒に行いたいです。よろしくお願いします。

研究分野 : 観光映像, 地域再生, 観光経営

研究者の所属部局・職位・氏名 : 和歌山大学観光学部 観光学科・教授・木川剛志

本件に関するお問い合わせ : liaison@ml.wakayama-u.ac.jp